

北海道銀杏会 第18回講演会

日時 2014年2月17日(月) 18時00分～20時00分

場所 札幌すみれホテル 4階「すずらん」

講師 北海道大学大学院法学研究科 教授 山口 二郎 様

本日は北海道大学大学院法学研究科教授の山口二郎様を講師にお迎えし、「安倍政権の課題と今後の展望」と題してご講演を頂きました。

「安倍政権の現状の課題」「日本の持続性への危機」「今後のあるべき方向性」の観点よりお話を頂きました。ご講演内容はボリューム満載で充実しており、時間が過ぎるのがとても早く感じました。概略は以下のとおりですが、幅広い内容のため、その一部しかご紹介できていないことをご容赦ください。

また、大学が求めているグローバル人材に関しても、「単に英語が話せるなどの表面的なものではなく、教養・知識・言葉の力・議論力を備えた国際人であるべきで、到達に近道はない」と話されました。

山口教授は4月から活躍の場を東京に移されるとのことで、参加者からの惜しみない拍手をもって講演を締めくくられました。

ご講演いただきました山口教授とご参加いただきました会員の皆様に、厚くお礼申し上げます。

1. 安倍政権の現状の課題

(1) 自己中心主義の台頭

戦後レジームを否定しかねない独善的言動。

(2) 多数による専制

自主的であるべき金融・報道・立法等の専門機関にいわゆるお友達を配置。

(3) 野党なき政治システム

民主党の自滅と野党の分裂。

2. 日本の持続性への危機

(1) 社会的共通資本への過度の市場主義導入

生活の土台であるべき「自然環境」「労働市場」「社会制度」において、市場主義が強まっている。このため、目先のコストカットに走り、長期的な弊害を招く。(非正規労働の増加等)

(2) 格差拡大と貧困の深刻化

社会的敗者が存在意義を求め、ナショナリズムが台頭。

(3) 成長幻想

経済成長は必ずしも問題を解決するわけではない。人口減少時代に突入しており、新たな社会モデルが求められる。

3. 今後のあるべき方向性

(1) 二大政党の実現

しっかりしたアイデンティティを持った対抗勢力が必要。これにより、民意を反映できる、バランスのとれた政治体制となる。

なお、民意が健全である例として半沢直樹の人気を挙げられ、「組織の無責任体質への痛烈な批判」が背景にあると話されました。

(2) 真の民主政治

政治は政治家だけのものではなく、国民一人一人が参加意識を持つことが大切。

(文責 渡辺知博)